



名匠ジャック・ドワイヨンが描き出す新たなロダンの肖像—— 誰もが知っているあの傑作が、今、天才のアトリエから生み出されていく

今年11月に没後100年を迎える、“近代彫刻の父”オーギュスト・ロダン(1840～1917)。《地獄の門》や、その一部を抜き出した《考える人》で高名な19世紀を代表する芸術家である。彼は42歳の時、弟子入りを切望するカミーユ・クローデルと出会い、この若き才能と魅力に夢中になる。本作はロダン没後100年を記念し、パリ・ロダン美術館全面協力のもと、『ポネット』(96)、『ラ・ピラート』(84)の名匠ジャック・ドワイヨンが、ロダンの愛と苦悩に満ちた半生を忠実に描いた力作である。

当時のアトリエに立ち会っているような臨場感をもって、数々の傑作が創造され、完成する瞬間を垣間見せてくれる本作。ロダンの愛弟子であり、愛人でもあった女流彫刻家カミーユ・クローデルとの関係を、通説のメロドラマの骨格に取めるのではなく、内縁の妻ローズと若い愛人との間で揺れ動く優柔不断な男の狡さや、カミーユに限らず、多くのモデルたちと性的関係を持ち、官能性をもとめた男の素顔として、ロダンの視点に立った物語で紡いでいく。カミーユの姿を介さず、彼女の彫刻『嘆願する女』を見つめるシーンに、晩年におけるロダンのカミーユへの思いは凝縮され、観るものの胸を打つ。

『ティエリー・トグドローの憂鬱』(15)でカンヌ国際映画祭、セザール賞の主演男優賞をW受賞したフランスきっての演技派ヴァンサン・ランドンが、ロダンを演じる為に8カ月間彫刻とデッサンに没頭し、ロダンの魂までも演じきり、“ジャンス・ジョブリンの再来”と呼ばれる『サンバ』(14)のイジア・イジュランがカミーユを好演。陰影深い知られざる人間性を浮き彫りにした本作は、新しいロダンの肖像として美術愛好家にはもちろんのこと、天才であるがゆえの孤独を抱えた一人の芸術家のドラマとして、多くの映画ファンを惹きつけるに違いない。

創った。愛した。それが人生だった。



100ANS
1917/2017
RODIN

天才彫刻家ロダン没後100年記念作品

パリ・ロダン美術館全面協力 第70回カンヌ国際映画祭コンペティション作品

監督・脚本：ジャック・ドワイヨン 撮影：クリストフ・ボーカルヌ 衣装：パスカリヌ・シャヴァニス 出演：ヴァンサン・ランドン、イジア・イジュラン、セグリーヌ・カネル
2017年/フランス/フランス語/カラー/シネスコ/120分/原題：Rodin 配給：松竹コムストック・グループ © Les Films du Lendemain / Shanna Bessen

rodin100.com

11/11 (土) 全国ロードショー!
特別鑑賞券1,500円(税込) 好評発売中(※一部の劇場を除く)
劇場窓口購入特典 | 特製クリアファイルをプレゼント(限定数)